

## I. 目的

県及び（公財）とやま環境財団では、平成16年度から、子供の頃からこの問題への関心を高めることを目的として、「とやま環境チャレンジ10」を、小学校、地球温暖化防止活動推進員及び市町村と連携して実施している。

これまでの環境授業による効果等の検証を行い、今後の「とやま環境チャレンジ10」に活かすものとする。

## II. 内容

### 1. 概要

「とやま環境チャレンジ10」では、県内の10歳の児童(小学校4年生)が、地球温暖化問題を学び、目標を決めて家族とともに家庭での10の対策を4週間実践・自己評価するという一連の取組を通じて、環境に配慮したライフスタイルを理解し、地球温暖化防止に向けた家族ぐるみの取組の推進を図っている。

過去5年分の4週間実践の評価を集計し、それぞれの取組の効果について検証した。

### 2. 参加者

平成27年度から令和元年までの、過去5年分について、県内の小学校のべ336校、児童14,926名分のデータを使用した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 参加校及び参加児童数

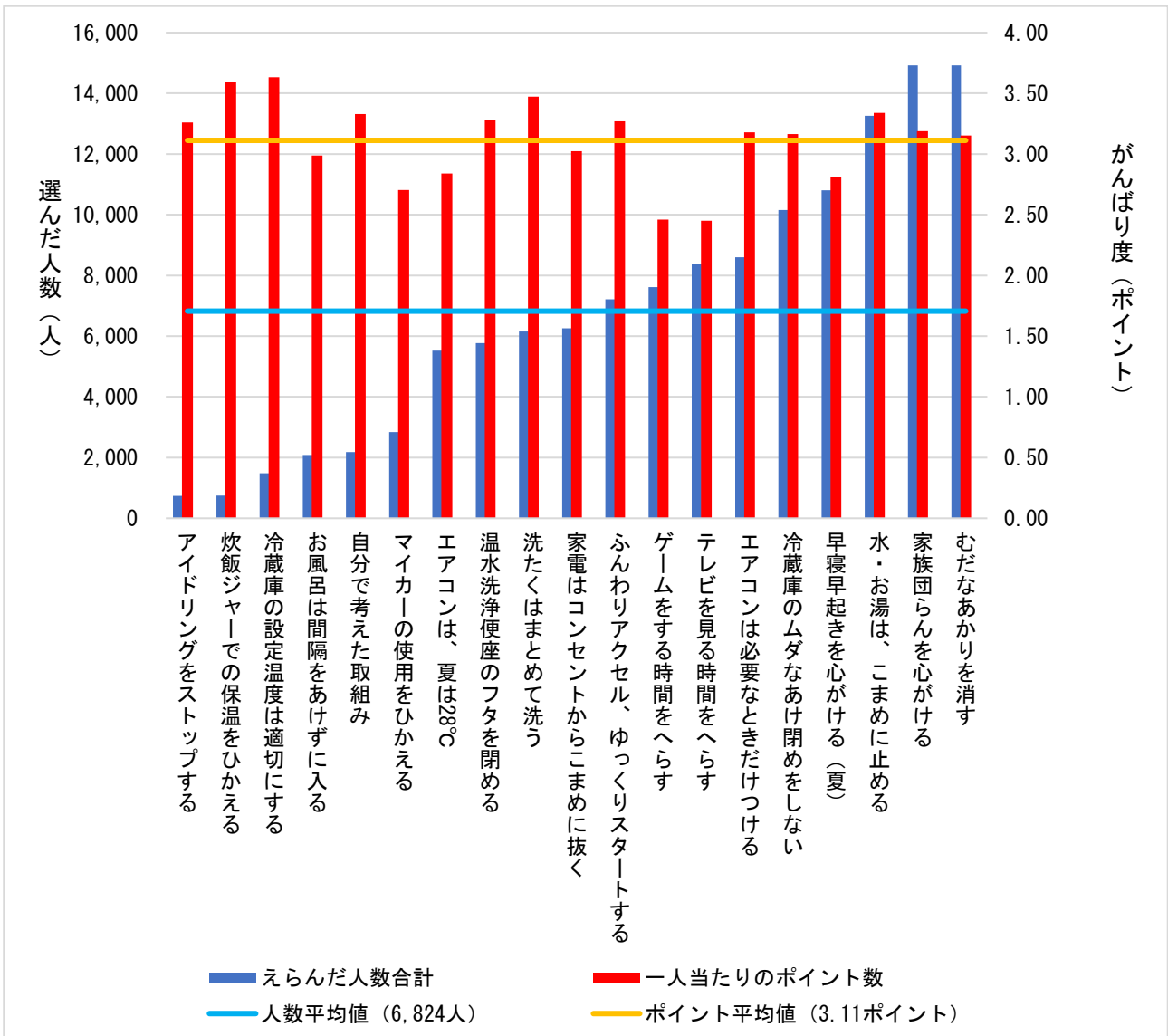
- ◇ 参加校 … … … のべ336校
- ◇ 参加児童数 … … … 16,519人
- ◇ とりくみノート提出児童数 … … … 14,926人 (90.3%)

#### 2. 各項目の取り組んだ人数及び1人当たりのがんばり度のランキング

過去5年分の共通している取組19項目について、取り組んだ人数を集計してランキング化し、各取組の1人当たりのがんばり度を集計した結果を追記した結果は次のとおりであった。

なお、「むだなあかりを消す」及び「家族団らんを心がける」については、かならずチャレンジの項目のため、とりくみノート提出児童数(14,926人)と共通である。

また、がんばり度とは、1週間当たり「よくできた」を1ポイント、「まあまあできた」を0.5ポイント「できなかった」を0ポイントとして、4週間分の取組を表したものである(1ポイント×4週=最大4ポイント)。



#### IV. 考察

##### ①取り組み人数が多い・がんばり度が低い

早寝早起きを心掛ける

テレビの時間をへらす

ゲームの時間をへらす

児童本人が取組む活動、特に生活習慣に関わる取り組みについては、取り組み人数は多いが、がんばり度が低い傾向にある。

チャレンジ 10 授業の中で、二酸化炭素削減効果をしっかりと説明してやる気を出させる、健康面や成績面でのメリットも併せて説明するなど、授業の進め方に工夫が必要と思われる。

##### ②取り組み人数が少ない・がんばり度が高い

洗たくはまとめて洗う

温水洗浄便座のフタを閉める

冷蔵庫の設定温度は適切にする

炊飯ジャーでの保温をひかえる

アイドリングをストップする

主に家族が取組む活動のうち、一度機器等の設定をすると達成できる取り組みについては、がんばり度が高いが、取り組み人数が少ない傾向にある。

これらの活動に関しては、日々の活動を評価できるように表現を変えるか項目自体を見直す必要があると思われる。

##### ③取り組み人数が少ない・がんばり度が低い

家電はコンセントからこまめに抜く

エアコンは、夏は 28℃

マイカーの使用をひかえる

お風呂は間隔をあけずに入る

取り組み人数が少なく、がんばり度も低い項目については、授業の中でこれまで以上に効果や重要性を丁寧に説明する必要がある。

また、「マイカーの使用をひかえる」については、本県の特徴から達成が難しいと思われるので「近場のおでかけは徒歩か自転車で」「休日のおでかけには公共交通機関を利用する」など、表現を工夫する必要があると思われる。